

報告日 令和 5 年 7 月 13 日 (木)	報告者 吉武惇二
分科会名 古文書を読む会	開催テーマ 尾張藩主徳川慶勝
開催日時 令和 5 年 7 月 13 日(木) 午前 10:00 ~ 12:00	開催場所 金沢公会堂第二会議室
参加人数 男性 8 名 女性 3 名 合計 11 名 (欠席者1名)	
<p>1. 尾張藩主徳川慶勝は、慶応 4 年 1 月、朝命に従い、従者を東海道、中山道沿道の大名・旗本領に派遣し、新政府軍恭順の証として「勤王証書」を提出させた。その結果、新政府軍は大きな戦闘をすることなく、江戸に向けて進軍できたとされる。今月の学習会では、提出させた約 600 枚の「勤王証書」の内、2 件の「勤王証書」とされる文書を学習した。</p> <p>2. 明治維新以降の政治体制は変遷を繰り返し、これに伴って、徳川慶勝の職名も行政官、名古屋藩知事、従一位、麿香間総代等と変わった。この間、慶勝が皇居で見た宮中社会の様子を記録に書き留めている。その内には、新橋から横浜間の鉄道が敷設された時、その開業式に当たっての出席要領(弁当、服装等)、明治 7 年 1 月 1 日の朝拝と新年宴会、3 日の元始祭の案内通知、また、西南戦争の戦況について電報による情報取得等が記述されていて、当時の状況を知るうえで興味深い。</p>	
<p>次回予定 令和 5 年 8 月 10 日(木)10:00~12:00</p> <p>場 所:金沢公会堂第 2 会議室</p> <p>テーマ:尾張藩主徳川慶勝の北海道八雲地区の開発施策について 酒井伴四郎日記について</p>	

